

訪欧ミッションを 英国、EUに派遣 ——日本への強い期待を実感

報告



東原敏昭

ひがしはら としあき
審議委員会副議長
ヨーロッパ地域委員長
日立製作所会長



高島 誠

たかしま まこと
副会長
ヨーロッパ地域委員長
三井住友フィナンシャル
グループ会長

ヨーロッパ地域委員会では、日本にとって重要なパートナーである欧州との連携を強化すべく、毎年ミッションを派遣している。2025年は11月26日から12月2日にかけて、私たちが共同で団長を務め、英国・ロンドン（18社35人）およびEUの本拠地であるベルギー・ブリュッセル（16社32人）を訪問した。

国際秩序が大きく揺らぐ中、法の支配・自由・民主主義・人権等の価値観を共有する日欧の結束を強化する重要性は一段と増している。今回のミッションでは、英国政府、欧州委員会、英国経済界等との意見交換を通じ、貿易投資をめぐる国際ルールの整備や、日英および日EUの協力関係を深める方策について率直な議論を行った。本稿では、ミッションの様相を紹介したい。

英国・ロンドン

ロンドン訪問初日は、英国政府の予算案公表日である通称「Budget Day」と重なった。予算案には増税なども含まれるため国民の関心が非常に高く、農業相税の課税強化を受けて、農家のトラクターが抗議のためにロンドン市内の道路を封鎖するような状況であった。そうした中で行われたイヴェット・クーパー外務・英連邦・開発大臣等との意見交換において、通商・外交政策については、法の支配を重視する両国のパートナーシップを一層深める必要があるとの認識で一致した。また、大臣から、2024年に英国が加盟した環太平洋パートナーシップに関する包括的及

び先進的な協定(CPTPP)を通じて自由貿易とハイレベルな基準を普及させることや、WTO改革等に共に取り組むことへの期待が示された。

英国は、2024年に発足したスターマー政権が2025年6月に新産業戦略を公表し、同戦略で選定されたAI等の重要分野を中心に産業競争力強化に向けた取り組みを進めている。日本とは、「産業戦略パートナーシップ」に基づき、クリーンエネルギー、量子サイバー等の協力に加え、非市場的な政策・慣行や過剰生産能力への対応等について協議している。

こうした背景のもと、カイルビジネス・貿易大臣も同席する中、英国産業連盟(CBI

I)とのラウンドテーブルを開催し、貿易投資、経済安全保障、産業戦略パートナーシップのもとでの協力策等について議論を行った。さらに、CBIとの間で共同声明を取りまとめ、保護主義が高まる世界の中で日英が協力して繁栄に向けた新たなルール・規範の確立を主導するよう両国政府に働きかけるとともに、官民が連携して産業競争力強化に取り組むことの重要性を指摘した。

ベルギー・ブリュッセル(EU)

EUは、国際情勢が変化する中で、フォン・デア・ライエン欧州委員長が2025年9月に欧州議会の演説で述べた「今こそ欧州の独立の時」というコメントに象徴される通り、戦略的自律に向けたパートナーシップの

多様化と強化に注力している。通商分野では、メルコスールやインドとのFTAに合意したほか、タイ等とも交渉を進めている。またCPTPPとの協力も進展しており、11月下旬にはEUとCPTPPの間で構造的な協議を進める閣僚声明を发出している。

欧州委員会との意見交換では、EUとCPTPPの連携に関する経団連の支持に対して感謝が示されるとともに、投資円滑化、サブライチエン強靱化、デジタル貿易等の分野における協力に向けて議論したいとの意向が示された。また、自由貿易を支持する国を増やすために、日本とEUが自由貿易を通じて繁栄する姿を示すことが必要との指摘もあった。

経済安全保障の観点でも、日本との連携に対する期待は大きい。日本やEUを含むG7

つくる必要があるとの認識で一致した。他方で、EUでは一部の政府調達等において、供給の安定性や持続可能性に加え、「欧州製であること」を非価格要素に位置付ける「Buy European」の議論もある。これについて、日本を除外しない形での制度設計を求めたところ、信頼できるパートナーである日本との協力の障害とならない方策を検討しているとの回答を得ることができた。

今回のミッションにおいて、ロンドンでは滞在3日間のうちに6人の大臣や、ビジネス・貿易省をはじめとする多くの英国政府・議会関係者と、ブリュッセルでは2日間のうちに2人の欧州委員に加え、貿易総局をはじめとする欧州委員会幹部と、それぞれ意見交換する機会を得た。いずれの場面でも、英国・EUの双方から、価値観を共有し法の支配を重視する日本に対し、自由貿易の推進や経済安全保障の確保等に向けた強い期待が寄せられた。また、「信頼できる日本企業と協力したい」「日本企業に投資してほしい」との意見も相次いだ。この背景には、経済的な依存関係の武器化や国際ルールを軽視する一方的な措置が頻発する中、ルールを遵守し信頼できるパートナーである日本および日本企業に対する期待の高まりがある。これを機会と捉え、今回の訪問で組上に載せられたCPTPPの深化・拡大やWTO改革等の国際ルールの形成における協力、ならびに日英・日EUの産業協力の深化につなげてまいりたい。

図表 訪問先一覧

英国・ロンドン
イヴェット・クーパー外務・英連邦・開発大臣、ピーター・カイル ビジネス・貿易大臣、ハイディ・アレクサンダー運輸大臣、エド・ミリバンド エネルギー安全保障・ネットゼロ大臣、シマ・マルホトラ外務・開発省/教育省閣外大臣、ジェイソン・ストックウッド ビジネス貿易省・財務省閣外大臣（投資担当）、ヴァルン・チャンドラ首相顧問、英国産業連盟(CBI)等
ベルギー・ブリュッセル(EU)
ヘンナ・ヴィルクネン欧州委員会上級副委員長、ヴァルデイス・ドムブロウスキ欧州委員、ドラコス・トゥドラケ セジュールネ上級副委員長補佐官、ペドロ・ローティ コスタ欧州理事会議長官房長、マリア・マーティン=プラット貿易総局長次等



英国 クーパー大臣(左から2人目)、ミリバンド大臣(同3人目)



ドムブロウスキ欧州委員(左から2人目)、相川一俊 EU日本政府代表部大使(同3人目)

では、重要鉱物の強靱なサブライチエン構築に向け、責任ある採掘・加工・貿易等のコストを反映した「基準に基づく市場の構築」に向けて取り組んでいる。日米欧が協力して、価格以外の「非価格要素」が正当に評価される市場を

今回のミッションにおいて、ロンドンでは滞在3日間のうちに6人の大臣や、ビジネス・貿易省をはじめとする多くの英国政府・議会関係者と、ブリュッセルでは2日間のうちに2人の欧州委員に加え、貿易総局をはじめとする欧州委員会幹部と、それぞれ意見交換する機会を得た。いずれの場面でも、英国・EUの双方から、価値観を共有し法の支配を重視する日本に対し、自由貿易の推進や経済安全保障の確保等に向けた強い期待が寄せられた。また、「信頼できる日本企業と協力したい」「日本企業に投資してほしい」との意見も相次いだ。この背景には、経済的な依存関係の武器化や国際ルールを軽視する一方的な措置が頻発する中、ルールを遵守し信頼できるパートナーである日本および日本企業に対する期待の高まりがある。これを機会と捉え、今回の訪問で組上に載せられたCPTPPの深化・拡大やWTO改革等の国際ルールの形成における協力、ならびに日英・日EUの産業協力の深化につなげてまいりたい。